

## 2月度の観察記録

カテゴリ : 2021年

\_MD\_POSTEDON投稿者: [Zz.admin](#) 掲載日: 2021-2-14

2021年2月度の観察記録です。

```
Untitled Page .auto-style1 { text-align: right; } var gaJsHost = (("https:"  
== document.location.protocol) ? "https://ssl." : "http://www.");  
document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost + "google-analytics.com/ga.js'  
type='text/javascript'%3E%3C/script%3E")); var pageTracker =  
_gat._getTracker("UA-3205823-1"); pageTracker._initData(); pageTracker._trackPageview();
```

2021年2月14日(日) 9:30~12:20 作成: 田畑恭子 監修: 瀧川正子

天気: 晴れ 新型コロナウイルスの感染状況により緊急事態宣言が延長され、2月の自然観察会も中止となりました。以下は2021年2月の記録として残すものです。 寒さが緩んで風のない穏やかな朝になりましたが、公園は意外にも人影はまばらでした。オタマジャクシ池の上段では、2月上旬に見つかったニホンアカガエルの卵塊にマーキングが施され、そのすぐ横に新たな卵塊がありました。卵の様子を調べると、まだ産卵からあまり時間が経っていないようでした。春の訪れを感じさせるオオイヌノフグリですが、花をじっくりと観察すると、中心に小さなめしべがあり、その両側に2本のおしべが見られました。タンポポも花を咲かせていましたが、この日見つけられたのはセイヨウタンポポばかりでした。







ギシギシ ギシギシの新芽の部分 コガタルリハムシ ウメの花はすでに満開のものや終わりかけたものがありました。たくさんのめしべが目立ちました。タマカタカイガラムシがついた枝では、アカホシテントウの成虫が活動していました。





コウバク 灰ホシテントウとタマカタカイガラムシ 畑ではジャガイモの植え付けの準備をされていて、種芋をカットした断面に灰をまぶしたものが用意されていました。灰が種芋を腐りにくくするのだそうです。いい香りに気づいて振り返ると、ソシンロウパイの花が満開でした。





畑の様子 ジャガイモの断面 ソシンロウバイ

レミノのところへ行きました。実は先月のタテジマカミキリがしがみついていた枝はそのあと折れてしまい紐で縛っておいたのですが、いつの間にかその枝は紐が外れて落下してしまいました。そしてタテジマカミキリがどうなったか探すと、別の枝でじっとしているのが見つかりました。冬越し中とは言っても、自力で移動することはできるようです。その場で観察したカクレミノの葉痕は、何か動物の顔のようにも見えました。

先月冬越し中のカミキリを確認したカク



タテジマカミキリ カクレミノの葉痕

湿地に移動する途中、1羽の野鳥が前を横切りました。

飛んで行った先を探すと少し先の木の枝にオスの**ジョウビタキ**の姿がありました。**湿地**は1週間前にヨシ刈りが終わったばかりで視界を遮るものはすっかりなくなっていました。そして近くの地面には鳥の羽が散乱していました。これは少し前に何かに襲われ絶命した**アオサギ**の羽とのことでした。襲ったのはオオタカであろうとのことでしたが、大きさ的にはずいぶんオオタカの方が小さいので、にわかには信じがたい思いでした。



ジョウビタキ ヨシ刈りの終わった湿地 アオサギの羽

湿地の横樹皮には横に伸びた

筋模様が目立ちました。さらに進むと**ツバキ**の花がいくつも落ちていました。園芸種のように多数の花弁が目立ちました。一つ花を拾い、その**中を展開**してみましたが一重のツバキの花にみられるような多数のおしべは見当たりませんでした。



サクラの樹皮 ツバキの花 ツバキの花の内部

道沿いの地面を**ヒカゲノカズラ**が伸びていました。ヒカゲノカズラは常緑のシダ植物で東山の森の随所で見られるそうですが、夏になると孢子囊が伸びた姿を見られる場合もあるとのことですので、注目したいと思います。この日は畑の近くのカクレミノで確認したタテジマカミキリですが、カクレミノの生えていない地方では**タラノキ**で越冬しているそうです。

道沿いの地面を**ヒカゲノカズラ**が伸び





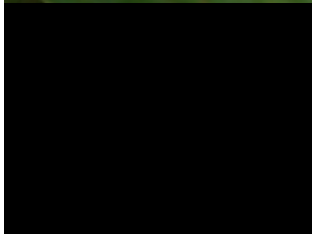




タンポポのロゼット ラップズイセン オオワラジカイガラムシ 冬枯れの林床の倒木に生えた  
イロタケのオレンジ色が鮮やかに眼に映りました。幅は広いところで10cm近くありました。続いて  
ヒメカンアオイの様子を見に行きました。毎年観察と記録を続け、近年は元気がなく笹刈りなどの  
手入れもしているこのヒメカンアオイですが、今年も葉の状態が悪く、小さな葉ばかりでした。  
中には黒くしおれてしまっている葉も多数ありました。しかし花だけは外見上は例年と変わらない  
サイズで、数も少なくはありませんでした。今後も注意深く見ていく必要があります。

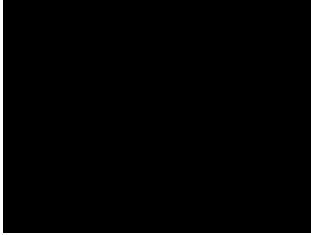


ヒイロタケ ヒメカンアオイの花としおれた葉 **アオキ**は雌雄異株で、雄株はつぼみをつけていました。雌株には去年の実が赤く熟しているものがありました。



アオキのつぼみ アオキの実 **コバノイシカグマ**は、これまでの自然観察会では観察したことのなかったシダの仲間です。葉の表面にはあまりツヤがなく、うっすらと毛が生えていました。それに比べて**オオウラジロ**は一見して表面がツヤツヤです。オオウラジロは1年で1節が育つということで、手近なところのものを確認してみると5節以上のものもあり、全体の長さは2 mを超えそうでした。





コバノイシカグマ オオウラジロ 北尾根を通して帰る途中の切り株に**ガララタセ**が生えていました。以前に見た時よりもかなり増えているように思われました。ハクサンボクは小さな花芽がようやく育ち始めたところでした。シュンランも小さなつぼみをつけていて、中には5個のつぼみが確認できる株もありました。





カワラタケ ハクサンボクの花芽 シュンラン ミモザは早くも開花していて、遠くからもその黄色が目につきました。ホウオウチクはひと枝につく葉の形を「鳳凰」になぞらえてその名がついたそうです。またそのそばのスホウチクは、剥がれ落ちた皮を拾ってみると思いのほか固く、内側がツヤツヤと光っていました。



ミモザの花 ホウオウチク スハウチクの皮 新型コロナウイルスの影響で自然観察会が実施できないのはこれで6回目です。春の気配を感じながら森を歩き、少しの間コロナ禍を忘れて身も心もリフレッシュすることができました。こんな気持ちのいい時間を早く多くの人と共有できる日常を早く取り戻したいと感じました。

平和公園での観察項目(観察順) : ニホンアカガエルの卵塊, オオイヌノフグリ, セイヨウタンポポ, ヒメオドリコソウ, ノビル, ギシギシ, コガタルリハムシ, ハクバイ, コウバイ, アカホシテントウ, タマカタカイガラムシ, 畑の様子, ジャガイモの植え付け, ソシンロウバイ, タテジマカミキリ, カクレミノの葉痕, ジョウビタキ, アオサギの羽, ヨシ刈りの終わった湿地, コリウス, サクラの樹皮, ツバキの仲間, ヒカゲノカズラ, タラノキ, クモの仲間, ウシハコベ, タンポポのロゼット, ラップズイセン, コシダ, ユズリハ, オオウラジカイガラムシ, ヒイロタケ, ヒサカキ, ソヨゴ, ヒメカンアオイ, ビナンカズラ, アオキの雄花, アオキの実, コバノイシカグマ, フユイチゴ, オオウラジロ, ランの仲間, カワラタケ, ハクサンボク, シュンラン, ミモザ, ホウオウチク, クロバナロウバイ, スハウチク